昭和42年11月14日　第四種郵便物認可
平成5年9月20日発行(毎月1回20日発行)
物　性　研　究　第60巻　第6号

ISSN 0525—2997

vol.60　no.6

物性研究

1993/9

1．　本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月１回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。

2．　本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。

3．　本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1．原稿は２部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。

2．別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。

3．**ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

1）用紙はＢ５またはＡ４を縦に使用。（印刷はＢ５になります。）

2）マージンはＢ５で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約４cm。

3）１ページに本文34行、１行に全角文字で42字。

4）第１ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。

5）図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。

6）体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。

4．**手書き原稿の場合**

1）原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。

2）数式は大きく明瞭に書き、１行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。

3）数式、記号の書き方は、 Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（⌐）、イタリック（＿）、ゴシック（〰）、ギリシャ文字（ギ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいｃとｅ、ｅとｌ、ｖとｕ、ｕとｎ、ｌ（エル）と１（イチ）、Ｏ（オー）と０（ゼロ）、ｘ（エックス）と×（カケル）、†（ダガー）と＋（プラス）、ψとϕとΨとΦなども赤で指定して下さい。

4）図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1．　本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月１回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。

2．　本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。

3．　本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1．原稿は２部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。

2．別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。

3．**ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

1）用紙はＢ５またはＡ４を縦に使用。（印刷はＢ５になります。）

2）マージンはＢ５で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約４cm。

3）１ページに本文34行、１行に全角文字で42字。

4）第１ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。

5）図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。

6）体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。

4．**手書き原稿の場合**

1）原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。

2）数式は大きく明瞭に書き、１行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。

3）数式、記号の書き方は、 Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（⌐）、イタリック（＿）、ゴシック（〰）、ギリシャ文字（ギ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいｃとｅ、ｅとｌ、ｖとｕ、ｕとｎ、ｌ（エル）と１（イチ）、Ｏ（オー）と０（ゼロ）、ｘ（エックス）と×（カケル）、†（ダガー）と＋（プラス）、ψとϕとΨとΦなども赤で指定して下さい。

4）図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集後記

なんとか原稿が集まり、ずいぶん遅れていた9月号が、やっと出版できるはこびになった。本誌は一般投稿、依頼寄稿、研究会報告を3本柱にしている。しかし、一般投稿論文はもともとあまり多くない。一方、依頼寄稿といえば、専従編集者がいない本誌ではライター探しがなかなか大変で、結局のところ、コンスタントに原稿が集まりやすい研究会報告を編集の中心に置かざるを得ない。ところが研究会報告も、研究会開催時期に著しいゆらぎがあって、原稿が集まらないときにはまったく無いのである（反対に、集中するときには一月分を一号で処理しきれないほどくる）。今回も、このような事情が重なって出版がおくれてしまった次第である。

私はかねてから、本誌がまとまった仕事の公表の場として、いわば和文のレビュー誌として使われるべきだと考えてきた。オリジナルな仕事なら、誰でも欧文誌に投稿したいだろうと思うし、そうするべきだろう。しかし、激しい競合下で書かれるオリジナル論文はあまりに気忙しすぎるのではなかろうか？　激しくライヴァルと競合しつつ研究を展開するという短いタイムスケール（これは研究にとって絶対に必要だと思う。）の他に、もう一つ、もっと長い思考のタイムスケールを人は持つべきではないのだろうか。そのようなタイムスケールを自己の中に実現するための方法として、例えば、いくつかオリジナル論文が書かれ、ある程度仕事がまとまった段階に、表現が自由な自国語を駆使して読者を想定したレビューを書いてみることは、私自身の乏しい経験からしても大変に有意義だと思う。読者を想定し、彼等を説得することによって、自分がもともと有していたモチヴェーションを辿り直し、意識下にあったボンヤリとした想念をコトバにしてとりだし、問題意識をより発展させるための契機になった経験は少なくない。

こういうタイプの、いわば自分自身のために書かれたレビュー・ノートが公表される場として本誌が活用されるなら、これまでになかったような創造的な役割が本誌に生まれるのではないだろうか。博士論文を書き終えて、ひとつの世界を構築した気分にひたっている若い研究者諸氏がどんどんこういう原稿を寄稿してきてくれればと思ったりする。まとまった情報がつまった、しかも、オリジナル論文では期待できないような著者の総合的見解が披瀝され、同時に著者の悩みも垣間見ることができるようなレビュー論文は、ミーハー的一般読者にはうけなくても、真剣に自分の世界を創造しようとしている読者には、たとえ分野が異なっていても共感をもって読まれると思う。

まとまった仕事に対して寄稿依頼した論文を掲載し始めたのも、それが上に記した様な論文が spontaneous に寄稿されるための誘い水になってほしいという下心があったからである。さいわい、最近このことが徐々にではあるが認知されはじめた（？）ようで、まとまった内容をレビューの感覚でまとめた論文がぽつぽつにではあるが投稿されるようになってきた。この喜ばしい傾向がますます強まってゆくことを期待したい。

（K．I．）

物 性 研 究　第60巻第6号（平成5年 9月号） 1993年9月20日発行

発行人　池 田 研 介　〒606－01　京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所　昭和堂印刷所　〒606　京都市百万辺交叉点上ル東側
TEL (075) 721－4541～3

発行所　物性研究刊行会　〒606－01　京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

年額　19,200円

会員規定

個人会員

1．会　費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、３月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume	（４月号～９月号）	**4,800円**
	2nd Volume	（10月号～３月号）	**4,800円**
			計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座　**京都１－5312**

2．送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3．送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先がかわる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4．会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1．会　費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費19,200円**（1 Volume 9,600円）です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2．送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より６ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町　京都大学湯川記念館内

電話（075)753-7051，722-3540

FAX（075)722-6339

昭和42年11月14日　第四種郵便物認可
平成5年9月20日発行(毎月1回20日発行)
物　性　研　究　第60巻　第6号

物性研究　60―6（9月号）目次

○溶液内化学反応論と溶媒和ダイナミックス……森田　明弘…… 647

○ベイズ統計と統計物理―有限温度での情報処理―……伊庭　幸人…… 677

○編集後記…… 700

昭和42年11月14日　第四種郵便物認可
平成5年9月20日発行(毎月1回20日発行)
物　性　研　究　第60巻　第6号

物性研究　60―6（9月号）目次

○溶液内化学反応論と溶媒和ダイナミックス……森田　明弘…… 647

○ベイズ統計と統計物理―有限温度での情報処理―……伊庭　幸人…… 677

○編集後記…… 700